

課題番号：デブリ-104

課題名	廃炉プロセス「燃料デブリ取り出し」 検討対象「炉内状況把握」 課題「PCV・RPV内部の線量の把握」	時間軸情報	汚染水対策				
			使用済燃料プールからの燃料取り出し				
段階	Preparation		燃料デブリ取り出し				
			PCV/RPV/建屋の解体				
ニーズ	望ましい状態とその理由		輸送・保管・貯蔵				
			処理・処分・環境回復				
1	PCV・RPV内部の線量を計測・評価したい		(参考) 関連する研究課題				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●被ばく管理の観点から線量率と放射能（線源）分布の違いを明確にしたうえで、本来の目的・用途を設定することが望ましい。</li> <li>●燃料デブリのサンプリングや燃料デブリ取り出しを安全かつ円滑に効率的に行うためには、気中及び水中も含めた原子炉内の線量評価及び線量分布を把握することが望ましい。</li> <li>●燃料デブリのサンプリングや燃料デブリ取り出しに際し、中性子の計測や水素の計測により作業安全やリスク低減を図ることができることが望ましい。</li> <li>●特に耐放射線量の観点から、炉内の線量に関する情報を、燃料デブリのサンプリングや燃料デブリ取り出しの機器設計に反映できることが望ましい。</li> </ul>	<b>【実施されている研究課題】</b> H27年度英知「プラント内線量率分布評価と水中デブリ探査に係る技術開発」 H30年度英知「ガンマ線画像スペクトル分光法による高放射線場環境の画像化による定量的放射能分布解析法」 H30年度英知「過酷炉心放射線環境における線量測定装置の開発」 H31年度英知「一次元光ファイバ放射線センサを用いた原子炉建屋内放射線源分布計測」 <b>【検討されている研究課題】</b> 課題リスト「シンチレータと光ファイバを用いた高放射線場の遠隔放射線計測」 課題リスト「プラント内の最適な線源分布と線量評価技術開発」 課題リスト「線源評価技術開発」 課題リスト「高線量測定用γカメラの開発」			
関連する課題	デブリ-103「FPの状況把握」 デブリ-105「炉内状況の知見集約」 デブリ-202「遮へい・除染対策」 デブリ-203「建屋内エリアの作業員被ばく管理」 デブリ-213「燃料デブリ取り出し方針」 デブリ-214「デブリ回収戦略の構築」 デブリ-217「燃料デブリへのアクセスルートの構築」 共-1「遠隔技術」 共-4「耐放射線性」						